

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	にしやまがくえんちゅうがっこうこうとうがっこう				②所在都道府県	奈良県
26～30	① 学校名	学校法人西大和学園 西大和学園中学校高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	931	
	中学校	219	192	220	631		
高等学校 普通科	100	100	100	300			
⑥研究開発構想名	地球規模の課題に挑戦できるグローバルビジネスリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困問題の原因を究明し、その解決のために「日本の強み」を探究する。 ・ 企業リソースを活用したその国に相応しい貧困問題の解決策を提案する。 ・ 貧困問題に関する文献や論文等を読み、その新提案の有用性と実行性を相互検証する。 以上の取組で、グローバルビジネスリーダーを育成する教育課程と指導法の研究開発を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>世界の貧困問題の解決策を提案することにより国際社会に貢献できるグローバルビジネスリーダーに必要な知識、スキル、マインドを習得させる教育課程及び指導法を開発する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、「次代を担う高い理想と豊かな人間性を持ったリーダーの育成」を教育目標に掲げ、探究型学習として中学校の卒業研究や高校のSSHサイエンス研究に取り組んできた。その結果、全国屈指の進学実績を収めている。しかしながら、グローバル人材の育成という観点に立てば、さらなる教育内容の充実の必要性を感じる。そこで今回のSGH事業では、新たな探究型教育プログラムとして、地球規模の課題である貧困問題に取り組むことにする。従って、A「貧困の原因究明と日本の役割」、B「貧困問題解決策の提案」、C「新提案の相互検証」の3点を研究開発の課題とする。</p> <p>A「貧困の原因究明と日本の役割」</p> <p>原因を究明し解決に向けて取り組むためには、当事国の人々とコミュニケーションをとり、相互理解を深めて信頼関係を築いた上で、未来の理想とする姿を共有しなければならない。また日本の果たすべき役割を考えるためには、日本の技術や伝統文化を見つめ直し、「日本の強み」を探究する必要がある。</p> <p>B「貧困問題解決策の提案」</p> <p>地球規模の課題への問題意識と国際貢献への使命感を持つグローバルビジネスリーダーになるためには、「日本の強み」を活かし、各企業のリソースを複合的に活用したビジネス戦略の中でその国に相応しい貧困問題の解決策を提案することが必要である。</p> <p>C「新提案の相互検証」</p> <p>専門家の指導の下、貧困問題に関する文献や研究論文をさらに調査・分析をすすめることで、様々な新提案の有用性や実行性を相互に検証し実現に結びつける。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>スーパーグローバル通信(仮称)、研究報告書を発行し生徒及び他の高校等関係機関へ送付する。また、講演会や生徒研究発表会などは広く一般に公開とする。さらにH.P.上で、課題研究の途中経過及び成果を公表する。</p>					

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 アジア諸国（特にベトナム、カンボジア）の貧困問題を抱える当事国との間で、それぞれの文化等に対する相互理解と信頼関係の構築を図った上で、貧困の原因を究明し、日本の強みを活かしてその国が理想とする解決策を探究する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 A「貧困の原因究明と日本の役割」 大阪ユネスコ協会、白鳳短期大学との連携協力の下、貧困を抱える当事国からの留学生とディスカッションを行う。また、高1 海外探究プログラムでベトナム、カンボジアの貧困地域を訪れて現地の人と意見交換をする。これにより当事国の文化、習慣、価値観、強みを知り、その上で貧困の現状を理解し、その原因及び理想とする姿を探究する。また、東京大学及びグロービス経営大学院等の協力を得て専門家による講義や教育講演会、グループワークの手法を用いて国際社会で活かせる「日本の強み」を探究する。 具体的には、「SG 研究Ⅰ（貧困の原因究明と日本の役割）」を開講し、上記の内容に取り組む。 検証評価に関しては、その都度アンケート調査を行い、貧困問題や日本の役割についての意識の変容を評価する。また、すべての終了後にレポートを提出させて理解度や意欲を評価する。 B「貧困問題解決策の提案」 「SG 研究Ⅱ」は平成27年度から開講する。 一橋大学イノベーション研究センター、企業のCSR担当者等の協力を得て、国際社会に貢献できるグローバルビジネスリーダーに必要な素養を習得するために、「日本の強み」を活かし、各企業のリソースを複合的に活用したビジネス戦略の中で生徒自らが貧困問題の解決策を提案する。 C「新提案の相互検証」 「SG 研究Ⅲ」は平成28年度から開講する。 東京大学 高大連携担当副学長 野城智也先生、東京大学 東洋文化研究所 池本幸生教授をはじめとする先生方からの指導助言の下、貧困問題に関する文献や研究論文を調査・分析し、各グループの様々な新提案の有用性と実行性を相互に検証し、実現に結びつける。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例 ・必要となる教育課程の特例とその適用範囲 特になし。 ・教育課程の特例に該当しない教育課程の変更 SG 研究Ⅰ」1単位 1年 「SG 研究Ⅱ」1単位 2年 「SG 研究Ⅲ」1単位 3年</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実施内容・実施方法 ・大学や国際機関の協力を得てスーパーグローバル教育講演会を実施する。 ・ベルリッツジャパンのネイティブ講師による会話を中心とした少人数制の特別講座「国際理解」を週1回放課後開講する。 ・模擬国連の活動を行い、単なる英語力だけではなく思考力、交渉力も身につける。 ・実技教科(音楽/美術、体育、情報)の授業の一部をネイティブ講師が行う。 ・多彩な海外研修プログラムを行う。</p> <p>(4) 幹事校としてのとしての取り組み（該当する場合のみ記入） 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特になし。</p>